

詩編 143 : 10

コリントの信徒への手紙一 15 : 25~28

「神がすべてのすべてに」

(ハイデルベルク信仰問答 祈りについて 問 123)

※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【招詞】 イザヤ書 60 : 1~2

【讚美歌】 24 「たたえよ、主の民」

【詩編交読】 詩編 6 編

【赦しの宣言】 イザヤ書 55 : 7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讚美歌】 17 「聖なる主の美しさと」

【祈祷】

【聖書】 詩編 143 : 10、コリントの信徒への手紙一 15 : 25~28

【説教】 「神がすべてのすべてに」

<み国が来ますように>

主の日の礼拝では、『ハイデルベルク信仰問答』を元に、「主の祈り」の内容を一つずつ、御言葉から聞いています。

今日は、「み国を来らせたまえ」。「み国が来ますように」との祈りです。

「み国」。聖書では、「神の国」とか「天の国」とも言われますが、これはどこかの場所のことではなくて、「神さまのご支配」という意味です。

「み国が来ますように」とは、「神さまのご支配が実現しますように」と言い換えることができます。

神さまのご支配です。ですからこれは、いつか何か、天国のような、理想郷のような、素敵な国がやって来ますように。穏やかな、平和な国になりますように、というような願いではありません。神さまのご支配が、今ここに、ありますように、と祈っているのです。

この、今わたしたちが生きている現実の世界を、神さまが支配して下さいますように。今ここで、わたしたちが、神さまのご支配に服従して生きる者とされますように。すべての者が、そのようになりますように。そう祈っているのです。

そして、やがて来る終わりの日、イエスさまが再び来られる日には、神さまのご支配がすべてを覆い尽くし、神の国が完成し、すべての者が、あらゆるものが、神さまの御前にひれ伏しますように、という祈りなのです。

<神の支配はどこに>

神さまのご支配が実現しますように。今、この世界で、わたしたちの上に、実現していきますように。

…今、この世界は、争いが絶えず、悲しみが絶えず、苦しみが絶えることはありません。神さまのご支配は、一体どこにあるのか。そう思ってしまうかも知れません。

もしかしたら、わたしたちは、早く、神さまがその強い御力で、この世のすべてを、あっという間に支配してくださり、罪と悪を滅ぼし、平和を来らせて下さればよいのに。悩みや苦しみが全くないような、穏やかな日々を、力づくでも実現して下さればよいのに。そのように思うかも知れません。

今、神さまは、この世をご支配なさることを、わざと手控えておられるのでしょうか。高いところから、様子を見ておられるのでしょうか。わたしたちに呆れて、愛想を尽かして、遠くから眺めておられるのでしょうか。

…いいえ、決してそうではありません。わたしたちがまず、思い起こすべきは、そもそも、この世界も、被造物も、わたしたちも、すべては神さまが造られたものであり、すべては神さまのものである、ということです。すべては、はじめから、今も、これからも、神さまのものであり、神さまがすべての主、すべての支配者であります。

しかし、わたしたち人間が、罪によって、その神さまのご支配を拒んだのです。

神さまではなく、わたしがわたしの人生の支配者であろうとする。神さまのみ心ではなく、自分の思い通りに、物事や世界が進むことを求める。そのようにして、わたしたちは、神の国ではなく、自分の国を求めたのです。

するとそこには、自分の思いを通して、自分の国、自分の支配を広げようとするところによる、争いや、競争や、勝ち負けが起こり、排斥や、搾取や、分断が生まれます。

…わたしたちが、神さまのご支配を拒むこと。わたしたちが、造り主である神さまを、主として畏れ、従うという、神さまと人間との、本来あるべき正しい関係を壊すこと。それは、隣人との関係をも壊していくことに繋がっていくのです。

また、この地上の被造物や自然の管理も、わたしたち人間が、神さまの思いに従わず、自分の思いに従うゆえに。正しく治めることができず、破壊するばかりになっています。

わたしたちは、わたしたち自身の罪のために、自ら神さまのご支配を離れ、罪と死に支配されるものとなっているのです。そうして、悲惨に陥り、自ら苦しみ、また互いにも苦しめ合っているのです。

<神の国への招き>

しかし、神さまは、そのようなわたしたちをお見捨てにはなりません。むしろ、深く憐れんでくださいました。神さまは、お造りになったわたしたちを、心から愛するゆえに、居ても立っても居られないほどに、激しく心を動かされ、憐みに胸を焼かれ（ホセア 11：8）、「立ち帰れ、わたしに立ち帰れ」と何度も呼びかけておられます。

わたしたちの罪を赦し、罪と死の支配から解放し、ご自分の愛と恵みのご支配の中へ、取り戻そうとさせていただきます。

そして、そのためにこそ、神さまは、ご自分の御子イエスさまを、この地上にお遣わしになったのです。

イエスさまが、地上で宣教なさった第一声は、こうでした。「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。(マルコ 1 : 15)」

神の国、神のご支配は、イエスさまによって、新たにわたしたちにもたらされたのです。

神の御子イエスさまは、まことの人となって、この地上に来られ、罪の只中に、悲惨の現実の只中に、わたしたちと共に立ってくださいました。

そして、イエスさまは、わたしたちの罪をすべて担い、滅びの死を引き受け、わたしたちのために、十字架に架かって死んでくださったのです。

イエスさまは、十字架の上で叫ばれました。「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか。(マルコ 15 : 34)」

これは本当は、神さまに背き、そのご支配を拒み、自ら罪の闇に捕らわれていった、わたしたち自身が叫ぶべき、叫びでした。本当はわたしたちが、罪を裁かれて、味わうべき絶望でした。本当はわたしたちが、神さまに見捨てられるべきでした。

でも、わたしたちを深く憐み、胸を焼かれるほどに愛してくださる神さまは、わたしたちがその罪の審きに、絶望に、耐えられないことをご存知でした。そして、見捨てることがお出来になりませんでした。滅びることを、良しとされませんでした。

だから神さまは、ご自分の御子イエスさまを遣わして、この方に、わたしたちの罪の重荷を、審きを、滅びを、すべて背負わせられたのです。

こうして、父なる神さまの愛のゆえに、憐みのゆえに、御子イエスさまは、わたしたちの罪と死をすべて、その御自分の十字架に引き受けてくださったのです。

しかし、それで終わりではありませんでした。イエスさまは、十字架の死から三日目に、死者の中からよみがえらされたのです。それは、イエスさまが、わたしたちの代わりに引き受けられた罪と死に、完全に打ち勝たれた、ということが明らかにされるためでした。

そうしてイエスさまは、罪にも死にも勝利され、天も地も、見えるものも見えないものも、すべてを支配する方となってくださったのです。

この支配者となられたイエスさまが、わたしたちに、罪と死からの解放を告げ、神さまの愛と命に満ちたご支配へ来るようにと、招いてくださっているのです。

イエスさまの十字架と復活によって、神の国、神のご支配は、確かに、わたしたちの上に、この世の現実の中に、確立されたのです。このイエスさまにこそ、罪も死も力を失ってしまう、神さまの愛のご支配、まことの命のご支配があるのです。

<神さまに支配されること>

でも、このイエスさまのご支配は、この地上に実現したからといって、すべての者が自動的に、支配されるわけではありません。また、何か強制的に、わたしたちが神さまに従わせられるのでもありません。

神さまは、わたしたちをこの神のみ国へと招き、イエスさまを信じて、心から、喜んで神さまのご支配を受け入れることを、求めておられるのです。

あなたはこれを信じるか。あなたは、神のご支配を受け入れるか。神の愛を受け取るか。そして、神の子どもとされることを、あなたは心から望むか。そう問われています。

わたしたちは、この招きに応えること。差し出され、開かれているみ国を信じて、踏み出していくことを求められているのです。

神さまのご支配は、強制でも、無理強いでもありません。

わたしたちが、この神さまのご支配の下こそ、わたしの居るべきところである。神さまに従うことこそ、わたしが最も幸いに生きる道である。神のご支配の下こそ、本当にわたしが、わたしの命を生きられるところである。そう信じて、喜んで、安心して来なさいと、神さまは招いておられるのです。

わたしたちは、「支配」という言葉に、あまり良いイメージを持っていないかも知れません。力による支配。恐怖による支配。命令に従わされること。自由を奪われること。支配には、そのようなイメージがあります。

しかし、神のご支配は、世の支配とは、まったく違います。イエスさまは、聖書の中で「わたしの国は、この世には属していない」と言われました（ヨハネ 18：36）。

神さまのご支配は、愛のご支配です。主人であるお方が、ご自分の僕に、奴隷のようにお仕えになる、そのような仕方で現わされるご支配なのです。わたしたち罪人のために、神の御子が、低く降り、苦しみを受け、身代わりになって死んでくださる。そうやって実現し、打ち立ててくださる、愛と赦しのご支配なのです。

このような愛と、憐みに満ちた、忍耐強い神さまを、わたしのまことの神として、まことの主として、生きることが出来るということ。その貴い命を捨ててまで、このようなわたしに仕え、愛と赦しを与えてくださるお方が、わたしの支配者であられるということ。

そのことを知り、受け入れること。ここに、わたしたちの本当の救いがあるのです。ここにこそ、わたしたちの、本当の幸いが、本当の喜びがあるのです。

そして、この神のご支配を受け入れたなら、わたしたちは、罪や死に属するものではなく、このような、愛と憐みの神さまに属するものとされるのです。わたしのために、十字架と復活の御業を成し遂げ、すべてに勝利された、イエスさまのものとされるのです。

ここにこそ、生きるにも、死ぬにも、ただ一つの、わたしたちの、本当の慰めがあるのです（ハイデルベルク問1）。

…この世には、多くの悩み苦しみが 있습니다。辛いこと哀しいことがあります。

でも、それが無くならないから、解決しないから、神の国はない、ということではありません。悩みや苦しみがあっても。辛いことや哀しいことがあっても。わたしたちは、いつでも、どんなときも、愛と憐みに満ちた神さまのご支配の下に置かれているのです。

ご自分の命を惜しまず捨てるほどに、このわたしを愛してくださる御子イエスさまが。わたしのために、神に見捨てられる絶望まで味わわれたイエスさまが。どんなどん底にも、悲惨の中にも、たとえ死にゆくときにも、必ずわたしと共にいてくださいます。もはや何者も、この方から、わたしを引き離すことは出来ません。

そして、イエスさまは、死者の中から復活し、罪も死も打ち破られたその勝利の御手で、わたしの手を取り、神さまの御許へと、助け、守り、導いてくださるのです。

わたしたちは、このことを信じ、受け入れたいのです。それが、洗礼を受けるということであり、神のご支配に生きるということです。

そして、今ここにある、わたしの人生を、わたしの命を、この一日一日を、イエスさまのものとして、神の国に属する者として、生きていく。それが、「み国が来ますように」と、祈り願っていることの内容なのです。

<み国の完成>

そして、もう一つ大切なことは、神さまのご支配は、確かにイエスさまによって実現しているけれども、まだ完成はしていない、ということです。

イエスさまは、確かに、完全に、罪と死に打ち勝たれました。神の国は、確かにわたしたちのところに来ました。

しかしまだ、すべての者が、神さまのご支配に従って、神さまのものとして、生きている訳ではありません。未だに、神さまに逆らう人々、あるいは、イエスさまのご支配そのものをまだ知らない人々が、まだこの世にはたくさんいるのです。

それに、わたしたちは、この世を生きている限り、なお罪に悩まされ、悪に惑わされ、死の力を恐れます。

しかし、終わりの日、イエスさまが再び来られる日には、神さまが、そのご支配を完成させてくださるのです。その日には、罪も悪も死も、完全に滅ぼされます。そして、世のすべての者が、すべての被造物が、完全に、はっきりと神さまのご支配を知り、神さまに心から服するようになるのです。

[ハイデルベルクから]

さて、ここで、今日のハイデルベルクを見てみます。問 123 では、「み国を来らせたまえ」に三つの願いが示されていると教えているのですが、その答えの一つ目の冒頭で、「あなたがすべてのすべてとなられる御国の完成に至るまで」と語られていました。

これは、今日読まれたコリントの信徒への手紙一 15：28 の御言葉の引用です。

「すべてが御子に服従するとき、御子自身も、すべてを御自分に服従させてくださった方に服従されます。神がすべてにおいてすべてとなられるためです。」…「すべてが御子に服従する」。そして、「神がすべてにおいてすべてとなられる」。それが、み国の完成です。

ですから、信仰問答は、その完成の日に至るまで、わたしたちが、神さまの愛と恵みのご支配の中に留まり、いよいよ神さまを主として従うように。それが、この一つ目の願いであると教えています。こうありました。「あなたがすべてのすべてとなられる御国の完成に至るまで、わたしたちがいよいよあなたにお従いできますよう、あなたの御言葉と御霊とによってわたしたちを治めてください」。

そして、答えの二つ目「あなたの教会を保ち進展させてください」との願いもまた、み国の完成に向けての、祈りです。

教会とは、建物のことではありません。「教会」と訳されているギリシア語は、「召し集められた者の群れ」という意味です。神さまに招かれ、イエスさまを信じて、救いを受け入れ、神さまのものとされた者たちの群れのことです。神の国に生きる者たちの群れのことです。つまり、ここに集う、わたしたちのことです。

「あなたの教会を保ち進展させてください」。この神さまの群れは、神さまの御言葉と、聖餐によって、信仰を生かされ、励まされ、保たれていきます。

さらに、教会を、この群れを、「進展させてください」と言っています。

それは、この群れの礼拝で、御言葉によって神の国が告げ知らされ、聖霊が働いてくださることで、イエスさまを主とし、神の国への招きに応える者が、一人でも多く増し加えられていきますように。神さまのご支配が、そのように、一人一人を捕らえてゆき、この救われた群れが、ますます大きく成長していきますように、という願いです。

神の国のメンバーが増えていきますように。神のご支配が、一人一人へと、広がっていきますように。これもまた、み国が完成に至ることを求める、祈りなのです。

ですから、その日に至るまで、わたしたちは、答えの三つ目のことを、願っていかねばなりません。「あなたに逆らい立つ悪魔の業やあらゆる力、あなたの聖なる御言葉に反して考え出されるすべての邪悪な企てを滅ぼしてください」と。

み国の完成に至るまで、なお、わたしたちには、信仰の戦いが続いています。罪の現実が迫ります。悪が心を惑わせます。死がわたしたちを恐れさせます。

しかし、わたしたちは、イエスさまが、罪にも死にも、すでに打ち勝っておられること。わたしたちを支配するのは、このイエスさまの恵みであり、神さまの愛であり、聖霊の力であること。そして、終わりの日には、神さまが、すべてのすべてとなられ、罪も悪も滅ぼして下さること。そのことを固く信じつつ、祈り求めつつ、歩んでいくのです。

そしてこれらの悪いものは、外から来るだけではありません。

何より、わたしたち自身の心が、神さまに逆らい立つこと、神さまの御言葉に反することがあるのです。

そのような、わたしたちの罪も、悪も、弱さも、わたしの主であるイエスさまが、支配して下さり、その十字架と復活の御力によって、滅ぼして下さいますように。

わたしたちは、み国の完成の日まで、このことを切に祈り続けていくのです。

<待ち望みつつ>

…復活し、天に上げられたイエスさまは、再び来られると、確かに約束なさいました。その時、神の国は完成します。罪も、死も、すべてがイエスさまの勝利に覆われます。今はこの肉の目には見えない神の国が、すべての者の目に現わされます。神がすべてにおいて、すべてとされます。

その時が、わたしたちが生きている間に来るか、もう地上の命を終えて召されているかは分かりません。しかし、どちらにせよ、イエスさまが死者の中から復活なさったように、その日には、わたしたちもまた、永遠の命を生きる、朽ちない復活の体を与えられます。

そして、イエスさまとこの目で直接見（まみ）え、神さまの御前にこの足で立ち、神さまを永遠に賛美し、礼拝して生きる者とされるのです。

その時、聖書の御言葉が、実現します。「神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。（黙示録 21：4）」そのような時が来るのです。

そして、わたしたちは、イエスさまによって用意されている、主の食卓、天の祝宴の席に着かせていただくことになります。

今日あずかる聖餐は、その天の主の食卓の先取りです。聖餐は、今この世で、神の国を信じて生きる者が、終わりの日の約束、み国の完成の希望を、さらに確かなものとされ、信仰を励まされ、強められるために、イエスさまが備えてくださったものなのです。

わたしたちは、こうして、今この時も、神さまのご支配に生きる恵みを味わいながら、神のみ国の只中を歩んでいきます。

それは、決して、浮世離れしたような歩みではなく、むしろ、人生に、信仰という確かな土台を据えて、忍耐強く、固く、立っていくような歩みです。

そして、やがて来る、み国の完成を、確かな約束として待ち望みつつ、共に「み国が来ますように」と祈り続けていくのです。

【お祈り】

天におられる、わたしたちの父なる神さま

御子イエスさまの十字架と復活の御業によって、罪と死に支配されたわたしたちを解放し、あなたの愛のご支配へ、恵みのご支配へ、命のご支配へと招いてくださったことを、心から感謝いたします。

御言葉と聖霊によって、わたしたちがイエスさまの救いを信じ、神さまのご支配を感謝と悔い改めをもって、心から受け入れることが出来ますようにお導きください。

そして、地上のすべての者が、あなたを主としてあがめ、地上のすべてにあなたのご支配が及び、あなたがすべてのすべてとなられますように。

そのみ国の完成の日が来るまで、神さま、あなたのものとされたわたしたちの日々の歩みが、今日の歩みが、あなたと共にあり、あなたに従い、あなたに喜ばれるものでありますように。そして、すべてに勝利なされたイエスさまのご支配の下で、罪や悪を退け、困難にも耐え忍んでいく力が与えられますように。

これから聖餐に与ります。どうか一人でも多くのものが、神さまのお招きに応えて、この恵みの食卓に、共に着くことが出来ますように。

そして、心一つにして、「み国が来ますように」と祈っていくことが出来ますように。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

【讃美歌】 3 5 7 「力に満ちたる」

【信仰告白】 ニカイア信条

【聖餐】

【讃美歌】 8 1 「主の食卓を囲み」

【十戒】

【献金】 6 5 - 1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】

【讃美歌】 2 9 「天のみ民も」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らしあなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けてあなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン